

チーム名	Tierra SUZUKI	大学・学部	宇都宮大学地域デザイン科学部	関東RiverCycRing ステージ
プラン名称	広域サイクリングロード 「わたらせプロムナード」			
リーダー名	田中春良	テーマ	RiverCycRingで「観光まちづくり」	本選出場 TABIRIN賞
指導教職員名	鈴木富之			
メンバー名	高橋美月 藤田小百合 丸山舞矢 鳥水梨歩			

○現状の分析と問題設定

今回のコンテストにおいて、対象地域を渡良瀬遊水地とその周辺地域に定める。2019年7月30日に、渡良瀬遊水地周辺のサイクリングを取り巻く環境について調べるため、小山市・栃木市・野木町の3つの自治体と共に現地視察を行った。以下に気付いた点を挙げていく。

- ・現在、整備されているレンタサイクルが観光利用されていない。
- ・観光資源は多く存在するが、知られていない。
- ・外部からの来訪者の交通手段と自転車の接続。
- ・対象エリアは平坦であり、初心者でも走りやすそう。
- ・対象地域に鉄道や自家用車でアクセスはしやすい。

→地理的条件や周辺環境は恵まれているが、観光資源が生かされていない。それをサイクリングを利用して外部からの誘客を狙う。自然環境と街が持つ魅力をサイクリングで結ぶ。行政の垣根を超えたサイクリングエリアを創設する。

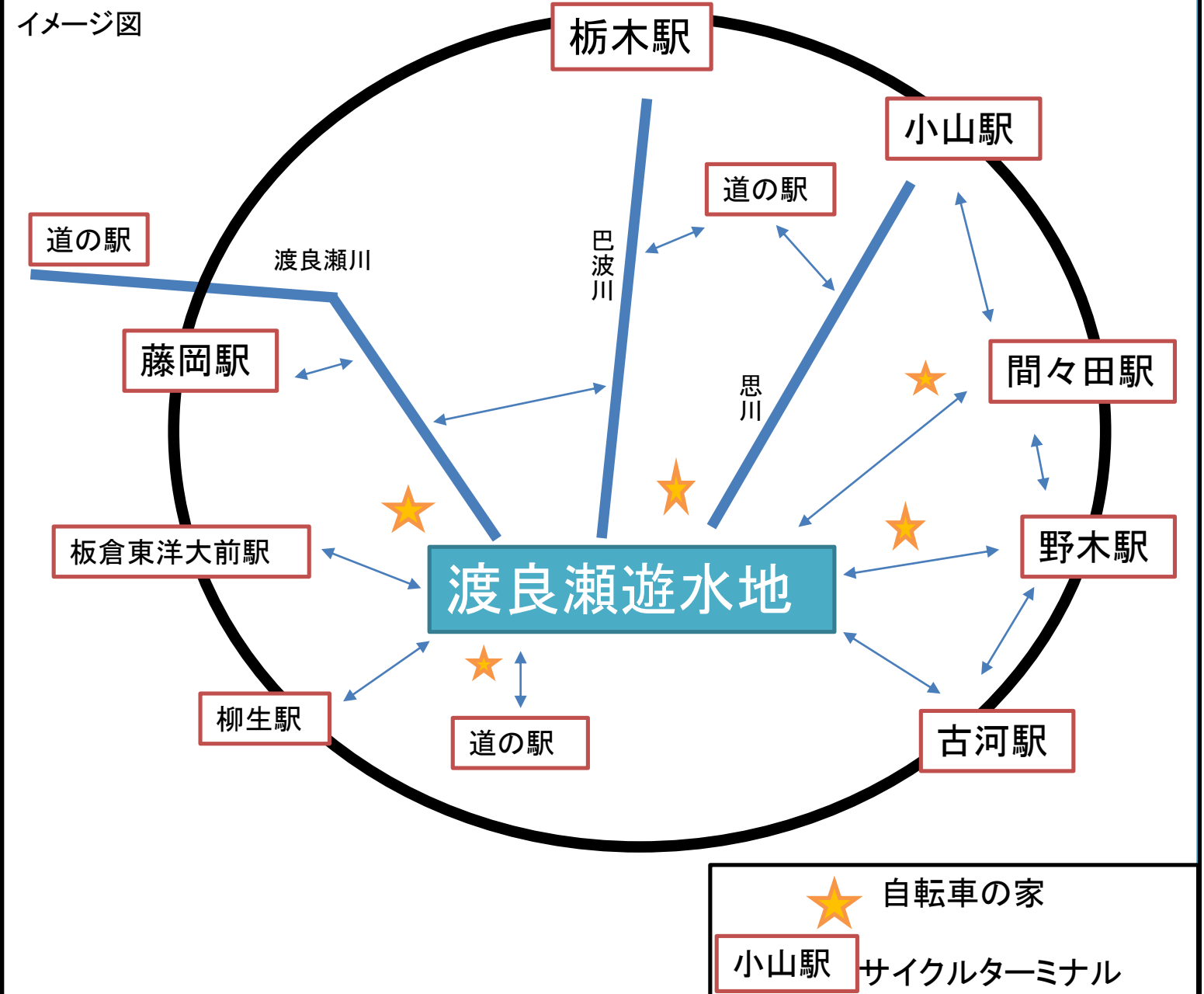
○問題の解決策

渡良瀬遊水地を取り巻く周辺自治体に新しいサイクリングのシステムを創設する。渡良瀬遊水地と街を気軽に行き交える広域サイクリングエリアを創り上げていく。サイクリングを盛り上げることで、観光客の誘致を図り、地域に存在する観光資源に触れ、地域の魅力と面白さを体感していただく。そのためにもサイクリングがより快適になる環境を整備し、また、サイクリングに関連した旅行商品を提案する。

○提案プランの詳細（実現計画）

- ・対象地域のJR宇都宮線と東武日光線の各駅・道の駅などを拠点として、渡良瀬遊水地を結ぶ。鉄道駅や道の駅にサイクルターミナルを形成。ターミナルには駐車場を必ず設置する。道の駅にもサイクルターミナルを設けることで、マイカー利用者もサイクリングがしやすくなる。
- ・レンタサイクルを一新する。対象エリアに統一したレンタサイクルを導入する。シティサイクルの他にも、クロスバイクや電動自転車を導入し、普段体感することのないようなサイクリングの環境を整える。なお、レンタサイクルはそれぞれのサイクルターミナルで借りられ、どこのターミナルでも返却ができるようにする。それにより、小山駅から出発→遊水地散策→柳生駅で返却のように、複数の地域と渡良瀬遊水地を訪れやすくなる。また、サイクルターミナルには、シャワールームを併設させる。（特に鉄道駅は必須）
- ・各ターミナルから遊水地までのロードガイドを（ブルーライン）を敷く。ガイドを辿ってゆけば遊水池や各方面のターミナルへ行くことができ、目的地までのアクセスが簡単になる。
- ・自転車レスキューと自転車の家を創設する。自転車レスキューは、サイクリング中にパンクや故障などのトラブルが発生した際に、専門の整備士が駆けつける。自転車の家は、対象エリア内の飲食店やパン屋・ケーキ屋などの既存の店舗に、サイクリストのサポートの協力を要請する。店舗の空きスペースや軒先を休憩所として解放をする。工具やサイクルラックを設置する。サイクリストが休憩・調整のついでに、消費行動につながる。
- ・夏場の遊水地内と周辺の走行環境は、直射日光を遮るものが少なく、熱中症の危険性が高い。遊水地内は休憩所がほぼ存在しないため、ヨシズで作られた簡易休憩所も創設する。

イメージ図



○提案プランの新規性と効果

- ・対象とするエリアにサイクルターミナルを設置し、小回りの効く自転車でサイクリングができるという点においては、関東地方では新規性がある。季節によって観察できる動植物などが変化するため、再来訪が見込まれる。交流人口を増やすことができるだろう。遊水地と河川と街を自転車で繋いで、自由なサイクリングを楽しむことができる。
- ・渡良瀬遊水地周辺の観光資源は点在している。それと遊水地や周辺市町とをサイクリングで結ぶことによって、今現在よりも観光周遊が気軽に行えるようになる。サイクリングがよりしやすい環境を整備することが可能になれば、自転車旅行者が増加し、観光まちづくりに寄与すると考える。また、このレンタサイクルの仕組みは、最寄りの鉄道駅から渡良瀬遊水地までの、二次交通としての役割を担わせることが可能である。